シリアからきたバレリーナ

ブルートン作　平澤朋子絵　尾﨑愛子訳　偕成社

アーヤは十二歳。ママと幼い弟と、内戦がおきたシリアからイギリスへ逃げてきた今、難民支援センターの列にならんでいた。ただよってきた音楽にみちびかれ、アーヤが見つけたのは、シリアで通っていたバレエ教室そっくりの、古びたバレエスタジオだった。

アーヤはそこで友だちになったドッティと先生の支えで、バレエ学校のオーディションを受けることに。

でも、自分の過去をダンスで語るには、封じこめてきたつらい記憶とむき合わねばならなかった。